

野良の藝術2025/ユニット・ウルス 参加作家 コメント集

●野良の食卓

野良の畑の収穫物での創作料理



WSチーム制作かまど2024

食のWSチーム&衛守和佳子

畑でつくった小麦や季節の野菜を食べる夢を掲げているけど、現実には難しい。収穫した小麦でバームクーヘンを焼き、カマド料理など、炎の魔法で楽しもう！

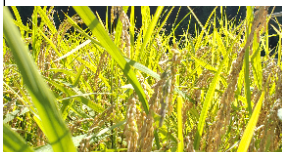
倉田 真寿

閨戸の森「蓮田裏庭蕎麦フィールド」

約500坪の土地で無肥料・無農薬で栽培された蕎麦茶です。純国産、自然栽培の貴重な蕎麦茶の風味をぜひ味わって下さい。

●野良の産物と作品の販売

秋フェス会場とさぎ山会場に「自力更生車」が登場。



森の製材リソラ 磯矢 亮介

・パネル発表

「FLライトのブロードエーカーシティーと自給自足の与えあいの循環社会」/「日本人の歴史と性質」「製材機と簡易架線集材による林業」

・子ども向けワークショップ
ロープと滑車で遊ぶ

●分断と結合をテーマとする造形作品と研究発表



柳井 嗣雄+萩原 毅

柳井 嗣雄

「Dialogue- 1200mの藁縄」

藁縄を切断して結ぶ行為を含めたインスタレーション。木の下に垂れ下がった無数の藁縄。人間の目線に結び目がある。

柳井 嗣雄+フリー参加者

「切って結ぶ」ワークショップ

参加者は、木の枝から垂らした2本の藁縄を目線の高さで結び付ける。(子供から大人までの様々な視高が同一空間に共存する)

衛守 和佳子

「月は大地と呼吸する2025」

自然と共生している農の力強さに、命の繋がりを感じた。愛する命、宇宙、自然、時間を私の創造の中に閉じ込める。

本多 慎吾

サウンドモンタージュを通じてテクノロジーと自然を交錯させ、耳に広がる風景を再構築する。響きは人工と生態の境界を溶かし、新たな聴覚体験を紡ぎ出す。サウンドスケープインスタレーション作品。

安部 大雅

「土の記憶」

古代ローマ建築と日本古来の建築技法には驚きの共通点が！
双方の利点を融合した新工法で制作します。

タナカ ヒデキ

古より、その土地や自然とともに暮らしてきた人々の生活を背景として、光と影、ものの気配を感じ取れる作品の制作を心がけています。 素材：藤 漆

WSチーム&長谷川 千賀子

昨年制作した「藁布団へのオマージュ」のほか、WSチームでゴザに柿渋を塗ったものを様々に加え、そこに寝転がって大地と空と対話する。

斉藤 茶微江

テーマ 分断の構図。
そこに私はワクワクを信じたいと思う。
花でそのワクワクを描きたいな と思いました。

石井 国義

僕たちはいったい何を見てきたのだろう。
遠い記憶をたどってみよう。生まれる前に見たものってあるの？
素材：竹

●炭焼きシンポジウム



移動式鉄板窯

広若 剛

移動式鉄板窯を使った炭やきを一緒にやりましょう！

煙突4つ通風孔も4つで朝着火して夜に終わります。軽トラで運べる窯なので機動性ばっちりです

吉田 富久一、衛守 和佳子、高橋 良知、ソンちゃん先生
長谷川 千賀子
もみ殻の炭づくり

かって日本で盛んにつくられたもみ殻の炭は農に役立つ炭素を循環させる。今や時代の最先端。

萩原 毅

・丸太材伏せ焼き
穴を掘り伐採した丸太をセット
最も素朴な炭焼き法に挑戦。

・製材機と簡易架線集材による製材デモンストレーションを行う

吉田 富久一

新たに東屋を建てる。竈門
広場周辺の環境整備を行う。さらに、移動可能な竈門を制作し、野良の食の機動性を広げ、貢献型藝術を目指す。

●農をテーマとしたパフォーマンス



モダンダンス20224 海保 文江、佐々木 春呼

伊藤 しょうこ 一人芝居
Yoko, la fille de la pluie〜雨娘

この作品は私がフランスに住んでいた時なぜ日本人が雨が好きなのか？雨の嫌いなフランス人の為に書いた演劇の冒頭シーンです。

彩のくに創作舞踊団
藤井 香 モダンダンス
江横 志織、海保 文江、佐々木 春呼、松元 日奈子
『在る』についての考察
鍋、箸、空きカン…身近な物でリズム踏み、着いた先に身を置く快感。見沼秋フェス会場から始まる、どんな様もwelcome！
ワークショップ・パフォーマンス

【五穀の起源】創作舞踏
構成／奥山 孜
舞踏手／細田 麻央 蒼 浩人
ノトヤ浩一 苅谷 明
音楽 SONO

スサノオに殺されたオホゲツヒメの体から穀物が生まれ、カムムスヒが種とされた。

蒼 浩人

農と踊り

それは自然との対話

地土のうねり 陽の光 静かなる燃焼 天と地を繋ぐ呼吸 右手は肉体 左手は精神 空間生命の揺らぎとリズム

●森と畑のワークショップ



野良の藝術2024フェス ビーチの美術館

赤山洪の話と柿渋染めの

ワークショップ

萩原 さとみ

夏のWSでつくった赤山洪でスカーフを染めたり、団扇をつくりましょう

＊「赤山洪」はかつて地域の特産物

加藤 典子

野良を駆け巡って発見しよう
自然の不思議！

見つけたらみんなに教えよう、どこにだってワンダーランドはあるってことを。ものをつくりえないフィールドワークが感性を耕します。

鈴木 知佐子

さぎ山探索と使える道具の創作をしよう

自然豊かな、さぎ山には宝物がいっぱい！例えば、蔓植物はかごに、枝はお箸に。ついでに食べられるものもみんなで見つけよう！

【ユニット・ウルス サポーター&賛同作家】 〔コメント掲載以外の方たち〕

あき、イジマフヒト、池田 照雄、福田 由紀子、小高 明美、鈴嶋 克太、田中 文太、堤 直人、時田 綾子、長田 淳一、根本 正彦、原 早苗、平野 えむ、松居 康夫、森の民、矢ヶ崎 健治、山西 直美、吉田 宏栄、李 函得、若林 祥文〔撮影〕石崎 幸治、佐藤 ユカ、中村 元〔チラシ・イラスト〕SUZU
【社会芸術・野良の藝術事務局】内田 和子、衛守 和佳子、小林 宏道、根本 賢、萩原 毅、吉田 富久一 ○野良の藝術 2025 プロジェクトリーダー／長谷川 千賀子

●見沼田園保護の現代的意義

～不易流行

菊地 真

野良の芸術活動こそ、見沼田園を現在の『古典』であることを証明する事を語り合いましょ

●心理学でひもとく

「感動」の正体

ソンちゃん先生

ユング心理学の視点から、時代と文化を超えて愛される文学作品・アニメ、そしてあなたが見た夢を解く。

●洪谷定輔の日記と詩集

「野良の叫び」 朗読

高橋 良知 SUZU
荒川沿いの小作農家に生まれた農民詩人洪谷定輔は、抒情におぼれず、都会にもまねられず、泥と汗にまみれた大地の子の叫びを綴る。

三枝 愛

サイアノタイプによるフォトグラム作品
空を浴びる。乏しい紫外線に身を委ね、真夏とは違う「青」を得る